

藝園と草牧

第六卷 第二号
昭和三十三年二月一日(毎月一回)發行



夕張部長沼町字幌内一〇六六
雪印種苗株式会社

中央研究農場

雪印種苗株式会社

長期経済計画に乗った畜産

田垣住雄

経済企画庁の日本経済長期計画の第一号を迎えたが、この長期計画では、次の二つの事実を把握しなければならぬ。

(1) 最近の日本は工鉱業の発達を主

軸として、あらゆる産業分野にわたつて、めざましい進歩をして、国民の生活水準もこれにつれて向上し、乳肉などの消費量が著しく増進しているの、この工鉱業主軸の経済計画には変りがないが、これに随伴して農業では畜産を主軸としての躍進が企図せられていくこと。

(2) 躍進する諸産業と足並みをそろ

えて推進できる農業部門では、畜産以外に画期的な方途を見出し得るものがないので、この長期計画では畜産長期対策が取り上げられ、驚異的と思われる畜産増強策が織り込まれていること。

このような企画庁の計画と相俟つて、農

林白書では、従来の農林政策を反省し、その対策として新農林水産政策要綱が打ち出されて、従来の米麦偏重の農政を改め、畜産を主軸とする畑作振興、土地開発が、さらに力強く推進されることになった。

まず今後五カ年の間に家畜数を現在の約三割増に躍進することが企図せられ、政府としては、その予算構成その他の施策を、この計画達成に集約する考えであるといっている。

このような経済企画庁の方針から、日本経済の確立のため、長期計画として畜産が取り上げられたことは、空前のことであつて、従来の農林政策だけの場合は、相当に違つた取扱い方であつて、畜政が農政から経済政策に躍進したことに、重大な意義を持つている。

幸にも、河野一郎氏が農林大臣として、草資源開発の重要施策を取り上げ、調査会などを設けて、その躍進を企図したのであるが、さらに経済企画庁長官に転じ、農林大臣として果し得なかつたこの大きな課題を、日本経済長期計画樹立にあつた、国家的企画として取り上げられたと見解でき

この長期計画は最近一〇カ年くらいの経済界の動向、日本国土開発の動向、国民経済の動向などから割り出されているので、全く板についた企画のように感ずる。要は属僚、議員達が果して、その真体に触れた予算措置、行政措置が、透徹して実行に移されるかどうか、あるいは農業関係諸機関、農業団体、農村組合および農民達が、その真体に触れた実践態勢を受け入れ得るかどうかに今後の成果が懸つている。

貧乏の宿命から脱け出せなかつた農民も、米食米作の因果を断ち切つて、草産基盤の開発、畑作振興によつて生産性向上の活路を開くチャンスがきたわけであるが、果して順当にこの路を開拓してゆけるかどうか。

この長期計画では農業の転進だけでなく、畜産そのものも転換するのであつて、従来の畜産思想、畜産技術、畜産統計などは参考にはなるが、

根柢にはならぬのであつて、従来通りの畜産では、決してこの躍進は期待できず、また流通過程に隘路があつて、推進できないわけであるから、今後の畜産推進では、この長期計画に内蔵する飼料基地開拓に関する大局を見失わぬことが肝腎である。

酪農酪農といつて、その躍進ぶりを誇張しているが、現に流通過程では諸問題にぶ

つかつて、行き詰り状態である。乳牛飼養農家数が僅か総農家数の四%で、年産七〇〇〜八〇〇万石で行き詰るような営業ぶりだ、どうして今後の躍進が期待できるはずがない。乳肉消費量が増したといつても、総人口七、〇〇〇〜八、〇〇〇万人に対しては、一日一人三匁、年一斗の消費量で、一合の乳を三〜四日で吞むようなていどである。肉もこれと大同小異の数値である。

表紙写真の説明
雪の朝……雪印種苗・上野幌育種場にて

牧草と園芸 二月号 目次

◇長期経済計画に乗った畜産……………	田垣住雄…二
◇アメリカ種苗見聞記(④)……………	中野富雄…三
◇カリフォルニア旅日記(下)……………	三浦梧楼…七
◇草地の施肥技術(②)……………	兼子達夫…三〇
◇草量の増加と草質向上のために……………	あをやまひさし…三三
◇飼料作物の品種……………	近藤 隆…三三
◇中国見たまま聴いたまま……………	原 秀雄…三五
◇青刈燕麦も混播で……………	原 秀雄…三五
◇草量の増加と草質向上のために……………	原 秀雄…三五
◇ペラの随想……………	原 秀雄…三五
◇雪印のたね(春播用) 価格表……………	原 秀雄…三五

国民大衆の需要は決して行き詰つていない実態であるから、値下げすればどんどんはけるというのが実情で、昔のロハでもはけなかつた時代と違つて、乳肉嗜好性は著しく向上している。行き詰りは大衆向の常食品としては、まだ値段が高いことに起因しているから、酪農も乳業も、肉業も、もつと良い品を安く販売できる手段を工夫すれば、流通過程には何の心配もい